

1. 「今」の本庁舎周辺はどんな場所？

1-1. 多治見市全体から見てどんな場所？

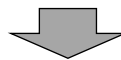
- 商店や住宅が集まっており、古くから中心市街地として栄えてきた歴史ある場所です。
- 長年にわたって本庁舎が位置しており、市の行政の中心的な役割を担っていました。
- JR多治見駅周辺への本庁舎移転をきっかけとして、エリアの役割が変化しようとしています。

1-2. 本庁舎周辺の環境は？

- 周辺には住宅地が広がっており、住民の生活の一部となるエリアである一方で、日常的に訪れ、遊び・交流できる場所が不足しています。
- エリア北側には土岐川が流れており、豊かな水資源が魅力ですが、その反面水害の危険性があります。
- 休日はオリベストリートへの来訪者が多く、賑わいをみせており、本庁舎駐車場も来訪者用に開放しています。

1-3. 本庁舎周辺の課題は？

- エリアの象徴的な存在であった本庁舎がなくなった後、地域住民にとって必要な機能は何なのか、再検討することが求められています。
- 市内外から多くの人々が訪れるオリベストリートに近いため、今後も来訪者にも配慮した利用を検討する必要があります。



2. 「将来」の利用について市民はこう考えていました！

本庁舎跡地の利用方法の検討に興味のある方を募集し、参加いただいた多治見市民や市内高校に通う生徒など様々な立場から意見をいただきました。

○第1回：本庁舎跡地がどのような場所になると良いか、そのためには何が必要かアイデアを出し合いました。

○第2回：第1回の成果を踏まえて、本庁舎跡地等の使われ方イメージをさらに深掘りしていきました。

表 市民ワークショップの意見まとめ

区分	共通点	内容
1. 対象者	幅広い年代・地域の利用	• 子どもから高齢者まで幅広い世代や地域住民、観光客、子育て世代など、多様な利用者を想定
2. 空間・機能	地域施設の設置	• 多目的空間やフリースペースなど、自由に使える空間を重視 • 世代や用途を問わず多様な人が集える施設の設置を求めている
	広場の設置	• 世代や用途を問わず多様な人が集える広場の設置を重視している • 交流、防災、子育て、イベント、自然体験など、広場に複数の役割を持たせている
	駐車場の設置	• 新施設や周辺観光客に向けた駐車場の設置を望んでいる • 駐車台数を確保するため立体駐車場とする意見もあり
3. 周辺連携	防災機能の設置	• エリアの特徴を踏まえて災害に対する備えを重視
	オリベストリートとの連携	• オリベストリートとの連携性強化を意識しており、観光客や地域住民の交流・回遊性を高めるための動線や施設配置を重視

3. 市民の目線から本庁舎跡地の利用方針をまとめました！

3-1. 私たちが目指す本庁舎跡地の将来はこんな場所！

市民ワークショップでの意見や成果を踏まえて、本庁舎跡地は、日常的に人が集まり、交流が生まれる、地域の「生活拠点」として、賑わいを創出する場所を目指します。
「地域施設」「賑わい広場」「駐車場」で構成し、住民の集う場としての機能に加えて、来訪者の受け入れも検討することで、継続的な賑わいが生まれるエリアとしていきます。

～日常的に人が集まり、交流が生まれる、地域の生活拠点～

